

「学位論文に係る評価の基準」

生命科学研究科

遺伝学専攻

本専攻では、自立した研究者としての能力を有していることを学位認定に際しての評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文では、遺伝学を根幹とする生命科学の分野の発展に寄与する本質的に新しくかつ高度な研究成果を報告することが求められる。研究内容が査読付き学術雑誌にすでに受理されたか、それに相当する内容を含むことが必要である。さらに、分野を俯瞰する深い洞察力、英語で理解・議論・表現する能力、研究の将来を展望する豊かな構想力、研究者としての高い倫理性を有することが求められる。

基礎生物学専攻

本専攻の学位認定に際しては、専門分野における研究者として主体的な研究を遂行する能力を獲得していることを評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文は、当該分野に寄与する本質的に新しく高度な研究成果を報告することが求められる。さらに学位認定に際しては、研究者として当該分野を俯瞰する学識の深さと、将来を展望する豊かな構想力を求める。

生理科学専攻

生理科学専攻は、生理科学の分野において主体的に研究を遂行する能力を有していると認められる者に学位を与える。主に博士論文によって判定するが、当該分野の発展に寄与するような本質的で新しく高度な研究成果を含む必要がある。具体的には、査読付き学術論文、あるいはそれに相当すると認定される研究を基準とする。併せて、当該分野を俯瞰する深い学識、将来を展望する豊かな構想力、英語を用いて議論・発表する能力、生命現象に対する真摯な態度、研究者としての倫理性も求められる。